

### (1) 病院執行部について

病院長、副病院長4名および病院長補佐4名を構成員とし、毎週火曜日に執行部会議を開催している。本会議では、病院経営等に関する迅速な意思決定を行うため、懸案事項についての検討を行っている。

### (2) 平成24年度事業報告

#### 1) 経営

平成24年度は、前年度に引き続き病院経営の安定化に向けて、医療用施設設備の改善・更新、医療環境の改善、人員の増強および患者アメニティ向上などを行った。特に重点的な取り組みとして、中央診療部門(リハビリテーション部、手術部、集中治療部)を複数年にわたり充実させる計画の初年度に着手した。

診療報酬改定による増収の他に、新規施設基準の取得、各診療科・各部門の努力等により、病院収入額は322.0億円(前年度306.1億円)で対前年度比15.9億円の増収となった。

診療状況は、1日当りの手術件数24.2件(前年度24.6件)、病床稼働率87.3%(前年度89.8%)、入院単価67,345円(前年度63,690円)・外来単価12,577円(前年度12,017円)・平均在院日数16.57日(前年度17.24日)・新規入院患者数20,323人(前年度20,146人)であった。

稼働額における増収の主な要因は、診療報酬改定による影響6.5億円、急性看護補助加算(50対1)の算定2.0億円、病棟薬剤業務実施加算の算定(関連分の増加を含む)0.5億円、画像診断管理加算2の算定(関連分の増加を含む)0.4億円、感染防止対策加算1の算定0.9億円であった。

支出においては、人件費が5.4億円の増、医療費は診療の稼働増加および新薬の増加・値引きの悪化等に伴い3.6億の増加(医療比率対前年比1.7%増)、病院経営にかかる総支出額で14.8億円の増加となっているが、収支のバランスはほぼ均等となり、健全な経営に向いてきたと言える。

増収および経費削減の主な項目は下記のとおりである。

#### 【増収】

- ①稼働率の維持
- ②診療単価の増加
- ③手術件数の維持
- ④在院日数の短縮
- ⑤新規入院患者の増加

#### 【経費削減】

- ①院外処方への推進
- ②医薬品・医療材料の価格値引き
- ③後発医薬品採用の推進

#### 2) 診療

安全で質の高い医療の提供をめざした活動を実施した。

- ①7対1看護体制の運用の充実
- ②脳死移植医療体制の整備
- ③病床再配置の実施
- ④がん診療支援専任スタッフの配置
- ⑤積貞棟1階・2階の運用体制の策定
- ⑥診療業務標準化の推進
- ⑦クリニカルパスの整備
- ⑧外来における専門性の高い看護業務の整備・推進(病棟・外来一元化の推進、外来における看護相談・在宅療養指導の充実)
- ⑨周産期医療環境の整備
- ⑩医師・医療関係職と事務職員等との間での役割分担の検討(医師の業務負担の軽減)

#### 3) 教育

医師、歯科医師、薬剤師、看護師、コ・メディカルの研修プログラムの一層の充実を図った。

- ①看護師教育・研修の充実
- ②優秀な研修医の確保(レジナビ参加等広報活動の強化、住居手当・宿舍等待遇改善要求)
- ③医師、歯科医師研修プログラムの円滑な実施
- ④次期研修プログラムの改善
- ⑤医学教育用シミュレーターによる教育環境の充実
- ⑥全職員に対する教育・研修(接遇・倫理、医療安全、感染管理、救急蘇生)の関係部署による実施の総括
- ⑦大学病院連携型高度医療人養成推進事業の着実な推進
- ⑧がん診療連携拠点病院としての京都府下のがん医療従事者向け研修の実施

#### 4) 研究

新規医療開発の推進、外部資金の獲得、実施基盤の整備を図った。

- ①橋渡し研究の基盤整備の推進
- ②探索医療センターが支援する研究プロジェクトの評価・検証
- ③院内臨床試験支援の推進
- ④スーパー特区の採択
- ⑤iPS研究の促進(京大病院iPS細胞・再生医学研究会の開催)

#### 5) 職員

病院運営の改善、推進に向けて人的資源の増強および労働環境、処遇の改善を図った。

- ①総長からの借用定員への対応
- ②医師および看護師の業務負担の軽減
- ③病棟医長等の業務の評価
- ④コ・メディカル職員の処遇改善
- ⑤診療に従事する大学院生等の雇用

#### 6) 組織

組織の整備、横断的かつ柔軟な組織体制への転換を図った。

- ①がんセンターの整備・充実(化学療法および集学的がん病床の運用体制の検討、がん登録の推進と業務体制の確立)
- ②手術部の支援・整備
- ③超音波検査センターの確立
- ④病歴管理室の強化(電子カルテおよびフィルムレスの推進に伴う業務内容の見直し)

#### 7) 施設・設備・機器

昨年度に続き、診療機器の更新・整備および機器安全管理体制の整備を図った。

- ①病棟再整備の計画
- ②看護師宿舍の借上げの見直し
- ③医療機器・施設整備委員会主導の機器更新計画の推進
- ④ME機器センターの機動的運用
- ⑤業務委託契約の見直し
- ⑥研究室再配置計画の検討
- ⑦医療用廃棄物の処理関係
- ⑧ライフライン設備の再生計画

## 8) 患者サービス

患者サービスの充実およびアメニティの向上を図った。

- ① 外来受付業務の円滑化(診断書のみ依頼患者の受付および交付方法の改善・確立)
- ② 患者案内システムの機能強化
  - ・呼び出し受信機において、外国人患者向けに、メッセージを英語表示
  - ・呼び出し受信機において、患者が次にどこへ行けばいいのか分かる案内地図や現在位置の表示
- ③ 外来アトリウムホールでの映画上映会など各種イベントの開催

## 9) システム

システムの改善・整備を図った。

- ① 総合医療情報システムの改善
- ② 電子カルテの機能強化
- ③ 電子クリニカルパスシステムの機能強化
- ④ FileMakerによるDBサービス支援体制および利用増加によるサーバー増強

## 10) 地域連携・広報活動

喫緊の課題として体制の強化および活動の推進を図った。

- ① 地域連携の強化(京大関係病院長協議会および京大病院臨床懇話会の開催)
- ② 広報活動の強化(オープンホスピタルの開催、京大病院広報の掲載内容の充実)
- ③ まいこネットを通じて患者への情報提供を拡大
- ④ がん・脳卒中を中心とした地域連携バスを導入し、地域医療機関との連携を強化

## (3) 運営企画室

財政や政策をはじめとした医療を取り巻く環境の変化とともに、医療サービスへの国民の期待はますます多様化している。運営企画室は、経営基盤の安定を通じて大学病院としてより高度な医療サービス・医学研究・医学教育の実現をめざす院内のシンクタンクの役割を担っている。

## 1) 活動内容

- ① 財務分析および業務・市場分析に基づく各種の経営に関する予測を行っている。これらに基づき、病院長の諮問による経営計画の立案と分析および予測に必要な調査を行っている。
- ② 経営安定に不可欠となる病床稼働率向上のために、ベッドコントロールセンターへの活動支援を行っている。
- ③ 診療科(部)カンファレンスを企画・実施し、病院執行部からの要請を各部署に伝え、また各部署のニーズを汲み、病院執行部などに伝える役割を担っている。

## 2) 主な活動実績

- ① 病院経営改善計画の立案
- ② 病院運営カンファレンスの開催(年1回)
- ③ 診療科(部)別運営カンファレンス実施
- ④ 部署からの要望事項について執行部へ検討結果を報告
- ⑤ 定例ミーティングの実施(毎週水曜日)